

音楽－１（第３学年） 感じ取ったことや表現したい思いなどを表す事例
【学習活動の概要】

1 題材名 能に親しもう		
2 題材の目標 能の音楽に関心をもち、謡曲にふさわしい声で歌唱表現をしたり、能のよさや美しさを理解して鑑賞したりする。		
3 評価規準 【音楽への関心・意欲・態度】 ・能の音楽に関心をもち、謡曲にふさわしい声で謡ったり能のよさなどを考えて鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。 【音楽表現の創意工夫】 ・音色，リズム，速度，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，発声や言葉の特性，曲想などを生かした音楽表現を工夫し，どのように謡うかについて思いや意図をもっている。 【音楽表現の技能】 ・謡曲の曲想，ふさわしい声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な，発声，発音，身体の使い方などの技能を身に付けている。 【鑑賞の能力】 ・音色，リズム，速度，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，能の音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。		
4 教材 表現教材 謡曲「高砂」 ^{かきつばた} ，「杜若」（第３～５時），鑑賞教材 能「船弁慶」（第１時，第６時）		
5 主な学習活動 題材の展開（全６時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第１時	能「船弁慶」の一部分を視聴し，能とその音楽の特徴を大まかに理解する。	視聴の前後で，能に対する意識がどのように変化したのかをワークシートに記入させて，学習内容への関心をもたせる。
第２時	能やその音楽の特徴，背景となる文化・歴史や他の芸術との関連などを調べる。	I C Tや図書等を活用し，能とその時代背景などを調べさせて，伝統的な文化を理解することに結び付けるようにする。
第３時	謡曲の声や謡い方の特徴などを知覚・感受しながら，謡曲「高砂」，「杜若」の冒頭を謡う体験をする。	「声の特徴と謡い方」と「雰囲気」を発言させたりワークシートに記入させたりして，知覚・感受を促し，豊かにする。
第４時	「高砂」を謡うグループと「杜若」を謡うグループに分かれて，それぞれの音楽の特徴を生かした表現を追求し，意見交換する。	「高砂」と「杜若」の音楽の特徴などについて，歌唱の体験や友達との意見交換を基にしてワークシートに整理させる。
第５時	謡曲の表現活動のまとめとして，グループごとに歌唱表現を発表する。	「高砂」と「杜若」の共通点や相違点などについて，ワークシートに加筆させる。
第６時	能「船弁慶」を七つの場面に分けて担当を決め，各場面の音楽の特徴と物語との関連などを考え，交流した後，全体で鑑賞する。	各場面について「よさなどを感じた理由」と「視聴したときの自分の感情」を全体で話し合い，交流させ，鑑賞を深める。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領第2章第5節音楽〔第2学年及び第3学年〕の2内容「A表現」(1)〈歌唱〉のア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。」、イ「曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。」、及び、(4)イ〈歌唱教材選択の観点〉の(イ)「民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの」を踏まえ、本指導事例では、謡曲にふさわしい声などを追求しながら謡う体験をする。併せて、「B鑑賞」(1)のア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」、イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」、及び、(2)「鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。」を踏まえ、本指導事例では、能の音楽の特徴を理解し、そのよさなどを考えながら鑑賞をする。

また、〔共通事項〕の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚・感受することを「A表現」及び「B鑑賞」の指導において共通に扱い、表現と鑑賞の相互関連を図った学習を展開する。

さらに、3「指導計画の作成と内容の取扱い」2(7)のア「生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。」を踏まえ、歌唱表現を工夫したり、よさなどを考えて鑑賞したりする過程に、学級全体、グループやペアでの意見交換、ワークシートへの記入などを適切に取り入れることによって表現と鑑賞の学習の充実を図る。

【言語活動の充実の工夫】

音を媒体としたコミュニケーションが音楽の本質である。したがって、本来、表現領域の学習で育成すべき表現力は、歌唱、器楽、創作で音楽表現をする力である。そこで、音楽の学習過程に、意見交換やワークシートを活用するなどの活動を適切に取り入れることによって、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりするような指導の工夫が求められる。

右のワークシートは、本事例において、謡曲「高砂」を謡うグループと「杜若」を謡うグループに分かれて、それぞれの音楽の特徴を生かした表現を追求したり、共通点や相違点を整理したりして、感じ取ったことや表現したい思いなどを書いたものである。

右のワークシートの生徒は、「杜若」の音楽の特徴について、発声は「細くてやわらかな感じ。口の中を広く、母音を大切に作る」、発声の心持ちは「しとやかに美しく。情感に満ちた声」、そして吟（謡い方）は、「流れるようにしっかりと。声は強く表現はどこか切なく」などと記入しており、音楽表現に対する自分なりの思いや意図を言葉で表している。また、「高砂」に取り組んだ友達とペア交流をして、友達の説明を聞き、それを基に「高砂」の音楽の特徴についても、「語尾を押し出すように」、「太く強い声」などと記入している。ワークシートの記述内容から、自分が感じ取ったことを相手に伝えたり相手の説明を聞いて理解したりすることによって、「高砂」と「杜若」の音楽の共通点や相違点をとらえ、学習を深めていることが分かる。

このように、感じ取ったことや表現したい思いなどを相互に伝え合う活動を適切に取り入れることが、結果として、豊かに音楽表現をしたり鑑賞を深めたりすることに結び付いていく。

謡曲に親しもう 3年組 番氏名

「高砂」と「杜若」を曲にふさわしい表現で謡おう

☐ 他グループの演奏を聴き、感じ取った共通点や相違点などを記入し、比較してみましょう。

自分か隣の方向に○をつけ、以下の項目について記入しよう。	高砂	杜若	共通点や相違点など
発声 感じ取った「声の特徴」や「めざす声」	横に広がる感じ。 一フツの言葉はハッキリ。 語尾を押し出すように。	細くてやわらかな感じ。 口の中を広く。 母音を大切に作る。	高砂は杜若よりも 強い感じで、腹の 底から声を出すように 謡うこと。 日本語を大切にしてい るところは共通している。
発声の心持ち どんな気持ちで謡うのか	太く強い声。	しとやかに美しく。 情感に満ちた声。	
吟（謡い方） 感じ取った「謡い方」や「めざす表現」	〃ヨヨ 音をゆらしている。 不思議で不安定な音階。 力強い表現。	37音の音階細かく明確 流れるようにしっかりと。 声は強く表現はどこか 切なく。	高砂は「ずしり」とい て豊かで固い表現を めざしている。
拍子（リズムのととり方）	平ハ七五調・8拍	大ハ四四調・8拍	

☐ (ペア交流) この太枠の部分をもとに、自分の取り組んだ謡曲の特徴や表現について相手に説明してみましょう。
※説明してもらった内容を記入しましょう。